

なし

発行年	1910
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10114/648">http://hdl.handle.net/10114/648</a>

## 第十二節 會社

(理由) 本節ハ財産取得編第六章ニ該當スルモノニシテ會社契約ニ關スル規定ヲ揭ケ以テ當事者間ノ權利義務ヲ明ニセリ法人タル會社ニ付テハ本節ノ規定ヲ適用ス可ラザル事ヲ知ルヘシ財産取得編第六章ニ於テハ數多ノ節ヲ設ケタリト雖モ木案ニ於テハ敢テ節ヲ分ク事ナシ又既成法典ノ規定中不  
必要ナルモノ多ク且ツ法人ニ關スルモノ少ナカラザルヲ以テ何レモ之ヲ創除セヨリ

既成法典其他多ク法典ニ於テハ民事會社ヲ以テ特定セル少人數ノ組合トシ人ノ觀察ヲ基礎トシテ一切ノ規定ヲ爲セリ然レトモ今日ノ社會ニ在リテハ不充分ノ觀察ニ能ハス蓋レ今日ニ至リテハ民事上ノ會社契約ヨリテ多數ノ人相共同シテ事業ヲ營ム事極テ多キヲ以テナリ尤モ多クノ場合ニハ法人ヲ設立スルコトニナルヘシト雖モ又農業ヲ目的トスル團體ノ如キ法人ヲ成ササルモノアリ是ヲ以テ木案ニ於テハ右ノ事情ヲ斟酌シテ會社ノ規定ヲ設ケタリ殊ニ既成法典其他諸國ノ法律ニ於テ社員一人ノ死亡ニ依リ會社ノ解散ス可キモノト爲レタル力如キハ最モ今日ノ事情ニ適セサル所アルヲ以テ現行合名會社ノ規定ニ倣ヒテ既成法典ノ缺點ヲ補ヒスリ

本節ニ所屬會社ナル文字ハ會社ノ契約ヲ指スモノナリ本來會社ナリ語ハ寧ろ契約ノ結果タル團結其モノヲ示スモノナリト雖モ他ニ適當ノ文字ヲ發見セザルヲ以テ遂ニ此語ヲ用ヒタリ

## 第六百七十四條 (六六六)

(理由) 既成法典ハ營利ヲ以テ會社ノ目的ト爲セリ此主義ニルキ佛民法及ヒ佛法系民法ノ舉テ採ル所

ナリトス本条ニ於テハ民法上ノ法人ハ利益ヲ收ムルヲ以テ目的トスルモノニ限ラサル主義ヲ採リタル如ク會社ノ目的モ亦營利ノ事業ニ限ラサルモノト爲レタリ是瑞士債務法及ヒ獨乙民法草案等ニ採ル所ノ主義ナリ唯本部ノ規定ニハテ營利ヲ以テ目的トセサル會社ニ適用スル事能ハサルモノハ固ヨリ少ナシトセサルナリ

財産取得編第百十五條 依ルキハ社團ノ義務ハ出資ニ限ルカ如シ然レトモ社員ハ出資ヲ爲スノ外共同ノ目的ヲ達スルニ必要ナル行爲ヲ爲シ又共同ノ目的ヲ達スルコトヲ妨ヘキ行爲ヲ爲ササルノ義務ヲ負フモノトス而シテ出資ノ義務ハ會社ノ契約ヨリ生ズル第一ノ義務ナルヲ以テ茲ニ之ヲ掲ケ以テ其他ノ義務ト性質ヲ異ニスル所ヲ明示シタリ

本條第二項ハ疑ヲ避ケルカ爲メ諸外國ノ法典ニ倣フテ之ヲ置キタリ而シテ財産ヲ以テ出資ト爲スヲ得ルコト及出資ノ割合ノ不均一ナルコトヲ得ルハ特ニ言フコトヲ要セサル可シ

財産取得編第百二十二條 第一項ハ當然ニレテ言フヲ依リタルヲ以テ之ヲ削リ

## 第六百七十五條(六六七)

(理由) 本條ハ既成法典ト同一ノ主義ニ出テ外國ノ法典モ亦多クハ共有主義ヲ採レリ蓋シ共有主義ハ能ク當事者ノ意思ニ適スルヲ以テナリ獨乙民法草案及ヒ瑞士債務法ニ於テハ會社ノ解散ニ際シ各社員ノ出資ヲ現物ニテ返還ス可キモノトセリ此規定タルヤ一見公平ナルカ如シト雖モ會社財產カ總社員ノ出資ヲ返還スルニ足ラサル場合ニ於テハ頗ル不公平ナル結果ヲ生ズルモノト云フ可シ此ノ如ク

會社財產ヲ以テ總社員ノ出資ヲ返還スルコト能ハサル場合ニ於テハ出資ノ割合ニ應ジ金錢ヲ以テ出資ヲ返還スルモノヲ以テ最も當テ得タルモノト謂フヘシ果シテ然ラハ會社財產ハ社員ノ共有ニ屬スルモノトシ持分ニ應ジテ之ヲ分割スルコト反テ便利ナリト謂ハサルモ可カラス但此規定タル一ノ任意の規定ニ過キス固ヨリ特約ヲ以テ別段ノ定メ爲スコトヲ得ヘク從テ實際當事者ノ不便ヲ來ス事ナカル可シ加之共有物ヲ分割スル方法ハ當事者ノ自由ニ定ムルコトヲ得ルモノナルカ故ニ現物ノ存スルモノハ通常現物ヲ返還スルニ至ル可キナリ

## 第六百七十六條(六六八)

(理由) 本條ノ規定ハ既成法典及ヒ其他ノ法典ニ倣フテ設ケタルモノナリ若シ本條ノ規定ニキトキハ金錢ノ出資ヲ忘リタル社員ハ唯法定利ヲ拂フノ義務ヲ負フモノニシテ損害賠償ノ義務ヲ負ハサルノ結果ヲ生ス可キナリ

既成法典ハ財産取得編第百二十二條ノ規定ヲ設ケタリト雖モ其規定タル極テ繁雜ナルモノナラス時トシテハ制裁ノ重キニ失スル恐れアリト云フ可シ故ニ此ノ如キ規定ハ之ヲ削除シ損害賠償ノミヲ以テ制裁ト爲セリ

## 第六百七十七條(六六九)

(理由) 會社ノ契約ヲ變更スルモノハ總社員ノ一致ヲ要スル事固ヨリ論ヲ俟タサル所ニシテ分明致フ以テ之ヲ規定スルノ必要ナレ唯業務擔當者ヲ定メサル場合ニ於テ業務執行ハ如何ニレテ之ヲ爲ス可キヤ



又業務擔當者數人アル場合ニ於テ如何ナル方法ヲ以テ業務ヲ執行ス可キヤヲ規定スルハ甚キ必要ナリトス諸國ノ立法例ヲ見ルニ業務擔當者ヲ定メサル場合ニ於ケル業務執行ノ方法ニ關シテ二個ノ主義アリ一ハ總社員共同ニテ之ヲ爲ス可キモノトスルモノ一ハ或制限ヲ設ケテ各社員ノ之ヲ爲ス事ヲ得ルトスルモノ之レナリ第一ノ主義ハ會社ノ基礎ハ人ニ在リトスルノ主義ヨリ出タルモノナリト雖モ實際ニ於テ極ア不便ナリ第二ノ主義ハ各社員互ニ委任ヲ爲シタルモノトスルニ推定ニ基キタルモノトシテ往々當事者ノ意思ニ反シ其當ヲ得ザル事論ヲ俟テス故ニ本案ニ於テハ社員ノ過半数數ヲ以テ業務ノ執行ヲ決ス可キモノト爲シタリ今若シ此ノ主義ニ基キテ會社ノ規定ヲ爲スニキハ能ク共有ノ規定ト權衡ヲ得ルニ至ル可キナリ既成法典ハ管理行為ト重要ナル行為トフ區別ヲ管理行為ハ各社員ノ之ヲ爲ス事ヲ得ルモノト爲シタリト雖モ重要ナル行為ハ總社員ノ一致ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノトシテ若シ意見ノ一致セザルトキハ多數決ニ依ルモノト定メタリ然レトモ管理行為ト重要ナル行為トノ分界ハ極テ不明瞭ニシテ管理行為ナル語ハ或ハ廣キニ失シ或ハ狹キニ失スルノ恐れアリ蓋シ管理行為トハ通常權利ヲ失ハサル行為ヲ指スモノニシテ或期間ヲ超ヘサル借貸ノ如キモ管理行為ニ屬セハ之ニ反シテ少額ノ金錢ヲ支出スルノ如キハ管理行為ニ屬セサルモノト爲ササル可カラザルヲ以テナリ故ニ本條ニ於テハ通常ノ業務ト非常ノ業務トヲ區別シ非常ノ業務ニ付テハ第二項ノ規定ヲ置キタリ又假令ノ業務擔當者ヲ置キタル場合ニ於テ各自ノ職分ヲ定メサルトキハ業務擔當者ハ如何ニシテ業務ヲ執行ヲ爲ス可キヤ此點ニ付キテモ亦二個ノ主義アリ一ハ業務擔當者ノ一致ヲ要スルモノトシ一ハ業務擔當

者各獨立シテ業務ヲ執行ヲ爲ス事ヲ得ルモノトスルモノ是レナリ本案ニ於テハ此場合ニ於テモ前ノ場合ト同ク過半数數ヲ以テ業務ノ執行ヲ決ス可キモノト定メ併セテ第三項ノ規定ヲ設ケタリ

既成法典ニ於テハ社員ヲ以テ業務擔當者ト爲ス可キモノトセリト雖モ實際ニ便ナル可キヲ以テ本案ニ於テハ第二者ヲ以テ業務擔當者ト爲スコトヲ得ルモノト爲セリ

#### 第六百七十八條(六七〇)

(理由)會社ノ業務ヲ執行スル者カ委任ヲ受ケタル者ナルトキハ雖然タル委任契約ノ存スルモノナレカ故ニ委任ノ規定ヲ適用ス可キ事固ヨリ論ヲ俟タズ唯社員ニ業務ノ執行ヲ委任シタル場合ニ付テハ反對說アリテ獨立ノ委任關係ヲ認メス業務擔當社員カ會社ノ業務ヲ執行スルハ會社契約ニ基キモノニ外ナラスト爲セリ此說一理アリキニ非スト雖モ委任ヲ受ケザル社員ハ會社ノ業務ヲ執行スル場合ニ於テハ既成法典ノ認ムル如ク毎ニ默示ノ委任契約存スルモノト見ルル妥當トス然レトモ明文ナキトキハ疑ヲ生スル恐れアルヲ以テ本案ニ於テハ此場合ニ付キ特ニ委任ノ規定ヲ準用スルヘキコトヲ規定スルニ必要アルモノト認メタリ今本案ノ規定ヲ設ケタル以上ハ財産取得權第二百三十三條乃至百二十五條ノ規定ハ之ヲ前除スルコトヲ得ヘシ

#### 第六百七十九條(六七二)

(理由)委任ノ場合ニ於テハ當事者ハ何時ニテモ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得ヘシ然レトモ會社契約ヲ

以テ委任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其委任ハ會社契約ノ一條件タルヲ以テ當事者ヲシテ隨意ニ辭任又ハ辭任ヲ爲スコトヲ許ス可キニ非ス然レトモ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ許ササルノトスルハ其當  
ヲ得サルヲ以テ正當ノ事由アル場合ニハ之ヲ許シタル

財産取得編第二百二十六條第二項ノ場合ハ通常ノ委任關係ニ存スル場合ナルヲ以テ明文ヲ以テ之ニ關  
スル規定ヲ置クノ必要ナレ又第二項ノ爲ス場合ニ於テモ亦之と同シク特ニ之ニ關スル規定ヲ  
置ク事ヲ要セス是レ本條ニ於テ會社契約ヲ以テ一人又ハ數人ノ社員ニ委任ヲ爲シタルトモ云々ト云  
ヘル所以ナリ又既成法典ニ於テ辭任ニ付キ何等ノ規定ヲ設ケザルハ缺點ト謂ハサレ可カラス故ニ  
本條ニ於テ辭任及留任ニ付キテ規定ヲ設ケタリ

## 第六百八十條(六七)

(理由) 本條ノ規定ハ既成民法ニハ之ヲ見スト雖モ商法ハ會社ニ關スル規定ニ於テ本條ノ主義ヲ採  
用シタリ蓋シ業務擔當者アル場合ニ於テハ各社員ハ業務ヲ執行ニ干渉スルコトヲ得スト雖モ會社ノ  
業務ヲ素ト社員ノ共同事業ニ外ナラサルヲ以テ業務擔當者カ如何ナル行為ヲ爲スニ拘ハラス社員  
ハ之ヲ傍觀セザル可カラストスルハ極テ其當ヲ得サルモノトス故ニ最近ノ立法例ニ倣ヒ業務ノ執行  
ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ本條ニ認ムル權利ヲ社員ニ與ヘサル可カラサルナリ

## 第六百八十一條(六七)

(理由) 會社契約又ハ其後ノ契約ニ於テ損益分配ノ割合ヲ定メサルトモ如何ニ其分配ヲ爲スヘキヤ

此應ニ付キテハ二個ノ主義アリ一ハ出資ノ額ニ依リテ其割合ヲ定ムルモノニシテ又一ハ平等分配主  
義ナリ今清算ノ際ニ存スル會社財産ノ全部ニ付キテ第一ノ主義ヲ採ルモノトスルハ極テ不公平  
ナル結果ヲ生ス可キヲ以テ獨民法及ヒ瑞士債務法等ニ於テハ先ツ出資ノ返還シタル後ニ至リ平等分  
配ヲ爲ス可キモノトセリ然レトモ一旦便宜上出資及ヒ其他ノ財産カ社員ノ共有ノ屬スルモノトスル  
ノ主義ヲ採ルモノ以上ハ出資ノ返還ヲ爲スヘキモノトスルハ論理ヲ一貫セシ宣シテ各社員ノ持分ニ  
應ジテ會社財産ノ全部ヲ分配ス可キナリ今假令出資ノ之ヲ返還スヘキモノトスルモ殘餘ノ財産ハ  
如何ニ之ヲ分配ス可キヤノ問題尙存在スルヲ以テ之ヲ決スルノ必要アリトス本案ニ於テハ當事者ノ  
意思ヲ酌ミ且主トシテ實際公平ナル結果ヲ得ルコトヲ欲シ計算時期ノ如何ヲ問ハス損益共ニ出資額  
ニ應ジテ之ヲ分配ス可キモノト爲シタル

本條第二項ノ規定ハ殆ト諸國ノ法典ニ於テ採用スル所ニシテ獨乙民法草案及ヒ瑞士債務法ノ如キモ  
亦此ノ規定ヲ設ケタリ是レ蓋シ此規定ニ能ク當事者ノ意思ニ適合スルヲ以テナリ取得編第二百  
七條第二項ハ損失分擔ノ割合ニ付キ本條ノ與ナル所アリト雖モ其公平ヲ失スルコト論論ノ俟マサルナ  
リ  
財産取得編第二百二十七條第一項ハ之ヲ置クノ必要ナク其第三項及ヒ第四項モ亦言フ俟マサル所ナリ  
トモ同第二百三十九條以下ハ損益ノ分配ヲ俾裁人ニ委任スル場合ヲ規定シタルモノナリト雖モ特ニ之  
ヲ置クノ必要ナク一般ノ原則ニ依リテ決定スルコトヲ得



## 第六百八十三條(六七四)

(理由) 本條ハ會社ノ債權者ニ對スル各社員ノ義務ノ程度ヲ示シタルモノナリ此事ニ關シテハ二個ノ主義アリ一ハ分擔主義ニレテ一ハ連帶主義ナリ連帶主義ノ理由トスル處ハ主トシテ信用ヲ保持スルノ點ニ在リ然レトモ一タモ此主義ヲ採ルトキハ當事者ノ責任重キニ過リ共相互間ノ便宜ヲ目的トシテ設ケタ民事會社ハ殆ト行ハルコトナキニ至ル可キナリ故ニ本條ニ於テハ割合ニ依リ分擔主義ヲ採用シ只善意ナル債權者ヲ保護スル爲メ末ヌノ規定ヲ置キタリ

## 第六百八十四條(六七五)

(理由) 本條ハ財産取得權第四百十二條ノ規定ヲ採用シタルモノナリ同條註文ハ之ヲ置クノ必要ナキヲ以テ削除セリ又本條第二項ハ共有ノ通則ニ反スルカ故ニ之ヲ置クノ必要アリ會社ノ性質上固ヨリ此ノ如クナラサルヘリヲサレトモハ敢テ説明ヲ依ササルナリ

## 第六百八十五條(六七六)

(理由) 民事會社ハ法人ニ非サルヲ以テ會社ノ債權者ハ其債務ヲ社員ニ對シテ債權ト相殺スルコトヲ得ルモノト謂ハサル可カラズ然レトモ若レ果レテ此ノ如クハ會社ノ共同事業ヲ妨グルニ至ルヘキヲ以テ獨乙民法第二讀草案ニ載ヒテ本條ノ規定ヲ設ケタリ

## 第六百八十六條(六七七)

(理由) 從來ノ立法例ニ於テハ人ニ觀察ヲ基トレタ民事會社ノ規定ヲ設ケ社員ノ一人ニ付キ死亡破産

又ハ禁治產等ノ事由ノ生シタルキハ會社ハ當然解散スヘキモノトシ或社員ノ退社ニ拘ハラズ會社ノ存続スルコトノ如キハ之ヲ認メス然レトモ此ノ如キ主義ヲ採ルトキハ實際ニ於テ極メテ不便ナルヲ以テ漸次ニ其改正ヲ爲スニ至レリ獨乙商法ニ於テハ除名ヲ許スモ特約ナキ限リハ退社ヲ許サズ我商法ニ於テハ社員ノ一人ニ付キ除名死亡破産又ハ能力喪失ノ事實發生スルモ會社ハ依然存続スルモノトシ尙ホ或場合ニ於テ社員ノ退社ヲ許シタリ今若レ從來ノ主義ニ依リ社員ノ一人ニ付キ此等ノ事實發生シタル場合ニ於テ會社ヲ解散スルモノトセハ社員一人ノ爲メニ會社全體ノ運命ヲ左右スルノ結果ヲ生シ其不便極ナカルヘシ故ニ本條ニ於テハ商法ノ主義ヲ採用シテ退社ニ關スル規定ヲ設ケタリ現行商法第二百十條ニ於テハ豫告期間ノ經過シテ後事業年度ノ末ニ於テノ退社ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ今本條ニ於テハ但書ノ規定アルヲ以テ事業年度ノ定メタル會社ノ社員ハ其年度ノ終了前ニ於テ退社ヲ爲スコトヲ得サル可シ而レテ本條ニ於テ豫告期間ノ經過ヲ必要トセサル所以ハ民事會社ニ付キ此ノ如キ制限ヲ設ケ可キ理由存セサルヲ以テナリ要スルニ本條ノ規定ハ諸國ノ法律ニ於テ其例ヲ見サル處ニレテ多クハ之ヲ以テ解散ノ規定ニ爲セリ

## 第六百八十七條(六七八)

(理由) 本條ノ規定ハ前條ノ說明中ニ述ベタル如ク既成法典其他多數ノ法典ニ見サレ處ナリ諸國ノ法典ニ於テハ本條ニ掲グル事由ヲ以テ解散ノ原因ト爲シタリ唯獨乙民法第二讀草案ハ除名ヲ爲スコトヲ許セリ本條ハ商法第二百一十一條ノ規定ニ倣ヒタルモノナリト雖モ本條第六百九十七條ノ規定ヲ

ルカ爲メ其但書ヲ削除セリ

### 第六百八十八條(六七九)

(理由) 社員中ノ或者ヲ除名スルコトハ實際ニ於テ必要ナル場合アリキニ非ス例ヘハ社員ノ一人カ隱匿ナク出資ヲ爲ササルハ如キ場合ニ於テハ之ヲ除名スルコト至當アリトス然レトモ除名ノ除名セラルル者ノ名譽ト利益トヲ害スルコト大ナル可キヲ以テ正當ノ事由アル場合ニ限リ他ノ社員一致ヲ以テ之ヲ爲ス可キモノト爲セリ而シテ其事由ノ存在スル場合ニ於テハ他ノ社員ハ必ス一致ス可キヲ以テ此條件ヲ設タルモ實際ニ於テ不與ナル可シ又除名ハ何レノ時ニ於テ其效力生スルモノト定ム可キヤ本案ニ於テハ決議ニ依テ其效力生スルモノトシテ除名セラレタル社員ニ其通知ヲ爲セタルトキニ至リ始テ除名ノ決議ヲ以テ之ニ對抗スルコト得ルモノト爲セリ而シテ商法ニ於テハ除名ノ效力ヲ生スルニハ裁判所ノ命令ヲ必要トセリト雖モ本案ニ於テハ必要キ限リハ裁判所ヲ煩ハササル主義ヲ採リタルヲ以テ此場合ニ於テモ亦商法ノ如キ規定ヲ採用セシ獨乙民法草案ニ於テハ本條ヲ殆ト同一ノ規定アリ

### 第六百八十九條(六八〇)

(理由) 本條ハ商法第百二十三條及第百二十四條ニ些少ノ修正ヲ加ヘタルモノナリ本案ニ於テハ社員ノ退社ヲ許セタルヲ以テ退社員ト他社員トノ間ニ計算ニ關スル規定ヲ設カサルヘカラス商法第百二十三條ニ退社員ノ爲メ特ニ作リタル貸借對照表ニ依リ云々トアルモ民事會社ニ付テハ此如キ條

件ヲ定ムルハ其目的タル事業ノ種類ニ依リテハ當テ得タルモノト謂フ可カラズ同第百二十四條第二項ハ解釋ノ方法如何ニ依リテ不公平ニ非サレハ則チ明文ヲ必要トセサルモノナリ若シ此規定ノ意義ニシテ會社ノ利益ヲ得タルトキト雖モ勢力ヲ出資ト爲シタル社員ニハ其利益ヲ分與セスト云フニ在ラハ其不公平ナルコト論ヲ俟タス若シ之ニ反シテ利益ハ之ヲ分配セシモ更ニ其勢力ニ對スル報酬ヲ與ヘスト云フニ在ラハ敢テ明文ヲ掲グルヲ要セサナリ

### 第六百九十條(六八一)

(理由) 既成法典其他諸外國ノ法典ニ於テハ會社解散ノ原因ヲ列記セリ然レトモ其多クハ言フヲ俟タル處ナリ唯本條ニ掲グルモノニ至リテハ當然解散ノ結果ヲ來ス可キヤニ付キ疑ナキ能ハサルヲ以テ特ニ之ヲ掲ケタリ商法ニ於テハ會社ノ目的ヲ達スルコト能ハサル爲メ會社ノ解散ヲ爲サレトスルニハ裁判所ノ命令ヲ要スルモノトセリ然レトモ民事會社ニ付テハ裁判所ノ命令ヲ必要トセズ本案ニ於テハ法人ニ付テモ裁判所ノ命令ヲ要スルノ主義ヲ採ワサルケル財產取得第百四十四條第一號ハ言フヲ俟サル處ニシテ其第二號ハ即チ本條ニ該當スルモノトス又第三號ニ所謂資本ノ損失ハ即チ其類ニ依リテ成功ノ不能ヲ來スヘキモノニシテ半額以上ノ損失ハ事業成功ノ不能ヲ來ス可キヤ否ヤハ之ヲ事實問題トス可シ又同第四號ニ掲ケタル事由ヨリニテ未チ解散ノ原因ト爲ス足ラス若シ之ヲ爲メ成功ノ不能ヲ來ストキハ本條ノ適用ヲ生シ又他ノ社員ニ於テ已ムコトヲ得サレ事由ト認ム可キモノナルトキハ第八百九十一條ノ適用ヲ生シ可キナリ同條第五號ニ掲ケタル事由ハ已ニ之ヲ



以テ退社ノ原因ト爲シ第六百八十七條ニ掲ケタリ

# 第六百九十一條(六八二)

(理由) 本條ニ於テハ社員ノ退社ヲ爲スコトヲ許シタルヲ以テ解散ノ請求ヲ許シノ必要ナル場合ハ大ニ減少セリ然レトモ全ク之ヲ許ササルハ其當ヲ得サルヲ以テ諸國ノ立法例ニ倣ヒテ之ヲ許シ獨リ己ハコトヲ得サル重大ノ事由アル場合ニ限ルモノト爲セリ

解散ノ請求スルノ方法ニ付テハ諸國ノ法典ニ致スル處ナレ商法ニ於テハ裁判所ノ命令ニ依リア解散ノ結果ヲ生スルモノトナレタリト雖モ本條ニ於テハ前ニ述ベタル主義ニ基キ原則トシテ社員ノ意思表示ニ依リテ其效力ヲ生ス可キモノト爲レタリ唯果シテ已ニ得サル事由ノ存スルヤ否アルニ付キ爭ノ生レタルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ決スヘキナリ

# 第六百九十二條(六八三)

(理由) 會社ノ解散ハ契約ノ解除ナリ故ニ解除ニ關スル規定ニ依リ其效力ハ既往ニ遡ルニ至ル可レ故ニ本條ヲ設ケテ其規定ニ依ルヘカヲササルコトヲ示レタリ

# 第六百九十四條第六百九十五條(六八三乃至六八五)

(理由) 財產取得編第五百十條ニ規定ハ鄭重ニ失レ且ツ業務執行ニ關スル規定ニ權衡ヲ失スルモノト謂フヘシ若シ清算人ハ總社員ノ一致ヲ以テ之ヲ選任ス可キモノトセハ社員ノ數多キ場合ニ於テ清算人ヲ選任スルコト能ハサルノ結果ヲ生ス可シ清算人解散後成ヘク速ニ爲ササルヘカガルモノナリ然ル

ニ原文ノ如クニ規定スルトキハ其不便實ニ大ナルヘシ商法ニ於テハ社員ノ多數決ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得ルモノトセリト雖モ社員自ラ清算ヲ爲スベキ場合ヲ規定セズ然レトモ明ヨリ之ヲ察スヘキ理由アラサルナリ又民法及ヒ商法ハ清算人數人アル場合ニ於テ多數決ヲ以テ清算行爲ヲ爲ス可キヤ又ハ一致ニテ之ヲ爲ス可キヤヲ規定セズ本條ニ於テハ業務進行中個人アル場合ト同ク清算人ノ多數決ヲ以テ清算ヲ爲ス可キモノト爲レタリ

# 第六百九十五條(六八六)

(理由) 本條ノ規定ハ外國ノ法典ニ多ク其例ヲ見エ然レトモ第六百七十九條ノ同一ノ理由ニ基キ之ヲ置ケリ

# 第六百九十六條(六八七)

(理由) 會社解散ノ場合ニ於ケル清算人ノ職務及ヒ權限ハ法人ノ清算人ノ職務及ヒ權衡ト相異ナルヘキ所ナレ故ニ第七十九條ノ規定ヲ準用ス可キモノトセリ清算人ハ損益ノ分配ノミヲ爲スヘキモノニ非スシテ會社ニ屬スル債權ヲ取立テ又其負擔スル債務ヲ辨濟シ尙會社財產ニ殘餘アルトキハ之ヲ社員間ニ分配スルコトヲ要ス此殘餘財產ハ如何ナル標準ニ依リテ之ヲ分配ス可キモノナルヤ此點ニ付テハ立法例一途ニ出アスト雖モ本條ニ於テハ利益ノ分配ノ出資ノ割合ニ應ジテ之ヲ爲ス可キモノト爲レタル權衡ヲ以テ殘餘財產ヲ分配スルニ當テモ亦出資額ヲ以テ標準ト爲スヲ至當トセリ而シテ第一項ノ規定ヲキトキハ共有ニ關スル規定ニ依リ平等ニ分配セサル可カラズトノ解釋ヲ生スル恐



# 第六百九十七條

(理由) 本條ハ例ニ依リ別段ノ定ナキトキハ本節ノ規定ヲ適用セサルコトヲ示スト共、契約ノ性質又ハ公益ニ關スル規定ハ其例外タルコトヲ規定シタルモノナリ

## 第十三節 終身定期金

(理由) 本節ハ既成民法財産取得編第七章第二節ニ該當ス、既成民法典第七章附條契約トシ其一部分トシテ第二節ニ終身年金權ニ關スル規定ヲ爲セリ、佛蘭西、西班牙ノ民法、バイエルン民法草案等モ亦此ノ如クナレトモ、本案ニ於テハ特ニ附條契約ナル表題ヲ設ケサルナリ、何トナレハ附條契約一般ニ通スル總則ヲ置カサルニ此特別ノ表題ヲ設ケル必要ナケレハナシ、實質定契約ナル表題ヲ設ケスレテ直チニ買賣發換等ノ事ヲ規定スルカ如シ

既成民法典ニハ終身年金權トアリシヲ改メテ終身定期金トシ、ナリ、即チ既成民法典ヲ改メタル點ハ第一權ノ字ヲ削レト、第二年金ヲ定期金トシタルニ、アリ、權ノ字ヲ削ルヘキハ殆ント説明ヲ要セス、年金トアリシヲ定期金トシタルハ我國ノ慣習トシテ、年金ノ外六ヶ月毎ニ若クハ月賦等ニテ金錢ヲ支拂フコト亦多キヲ以テナリ、而シテ茲ニ定期金トシ定期物トセサリレハ此契約ノ目的ハ多クハ金錢ニシテ金錢以外ノ物件ナルコト極メテ稀ナルカ故ナリ、決シテ金錢以外ノ物件ノ定期納付ヲ除外スルノ主意ニアラス、時效及ヒ抵當ノ規定ニ於テ定期金ト言ヘルモノト同一ナリトス

## 第六百九十七條 終身定期金契約ハ當事者ノ一方カ自己、相手方又ハ第三者ノ死

亡ニ至ルマデ定期ニ金錢又ハ其他ノ物、相手方又ハ第三者ニ供與スルコトヲ約スルニ因リテ其效力ヲ生ス

(理由) 本條ハ既成民法財産取得編第百六十四條乃至第百六十七條ヲ併合シテ之ニ修正ヲ加ヘタルモ